

シチリアワークショップ 体験記

2023.9.11~9.21

はじめに

私たちは2023年9月にイタリアのシチリア島で行われたワークショップに参加しました。

このワークショップには九州大学から学生4名とチューター1名が参加し

はじめの1週間はシチリア島中央にあるまちに赴いて設計提案を行い

残りの1週間でシチリア島の建築視察を行いました。

設計提案では現地のパレルモ大学や韓国の釜山大学、中国の同濟大学

オーストリアのウィーン工科大学の生徒も参加し

国際交流の中で海外のプレゼンテーションや設計への姿勢を体感しました。

視察旅行ではシチリア島の歴史・文化や農業について知見を深め

様々な学びを得たワークショップとなりました。

今回、このワークショップにおける体験を体験記として皆さんに共有したいと考えました。

2部構成となっております

前半の1週間（ワークショップ編）と後半の1週間（建築視察編）に分かれています。

最後まで読んでいただけると幸いです。



左からチューターの中満、学生の熊丸、塘口、枝吉、張（敬省略）



日程

オンラインワークショップ

第1週 7/24-7/28 レクチャー

シチリアや対象敷地について英語の講義

第2週 8/1-8/4 レクチャー

各国のデザイン手法について英語の講義

第3週 8/7-8/11 プレゼンテーション

生徒による対象敷地の調査と提案方針について発表

現地ワークショップ

9/9 出国

9/10 パレルモ観光

夕方、ワークショップ開催地へ移動

第1週 9/11-9/15 設計提案

5日間でプレゼンボードと3分程度の動画を作成し発表

第2週 9/16-9/21 シチリア島建築視察旅行

シチリア島のいくつかの町を視察

9/22-9/23 帰国



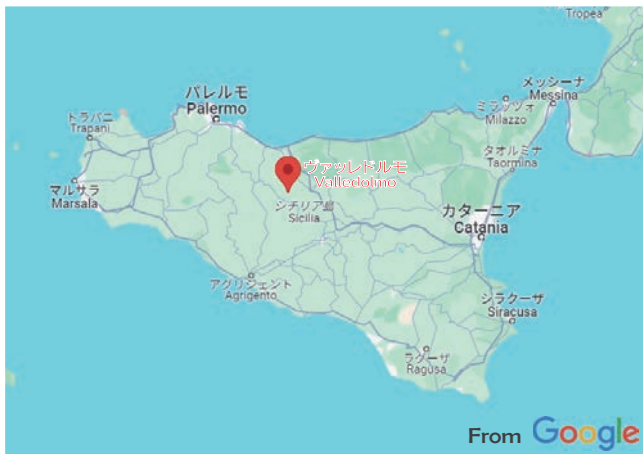
目次

1. ワークショップの内容	4
2. シチリアってどんなところ？	5
3. ワークショップ中の活動	6
4. ワークショップ中の見学について	15
農場見学	
ワイナリー見学	
5. 素敵な写真たち	17
6. まとめ	19



1. ワークショップの内容

このワークショップの対象地はシチリア北部山間にある**ヴァッレドルモ (Valledolmo)** というまちでした。シチリア北西部の都市パレルモから車で2時間ほど行くと見えてきます。



シチリア島全体図



ヴァッレドルモの航空写真

さて、今回のテーマはヴァッレドルモの川沿いにある敷地の建物の改修です。右図の**赤枠** [] で囲まれた敷地が更に5つに分けられて、オンラインワークショップ中に各大学がどこを担当するか割り当てられました。

敷地にある建物は主に砂岩など脆い素材で出来ており、多くが既に老朽化していました。そのため、建物を新しく建てるのが望ましいと考えられます。

また、ヴァッレドルモでは農業が盛んに行われていますが、日本と同様農業以外の仕事を求め都市部への人口流出が続いており、どうまちを魅力的に、活気あふれるようにするかも提案の中で考えなければなりませんでした。

この現地で行われたワークショップでは、オンラインワークショップで事前に収集したデータや提案方針を基に、現地で気づいた課題や特徴を組み合わせ、さらにまちの人へ魅力的なプレゼンテーションを行うことが最終目標でした。



2. シチリアってどんなところ？



地中海の中心に位置する最大の島。交通と通商の要地で諸勢力が交替し地中海における「文明の十字路」ともいわれた。ギリシア人の入植・ローマの属州支配・ゲルマン人とビザンツ帝国の支配・イスラーム支配・ノルマン王国・神聖ローマ帝国・スペイン支配時代をへて、1861年にイタリアに編入された。

— 世界史の窓より

<https://www.y-history.net/appendix/wh0103-027.1.html>

シチリアはイタリアの南部に位置する、九州の約3分の2ほどの面積の島です。イタリアはよくロングブーツに例えられますが、シチリアはそのつま先に当たります。主な都市はパレルモ、カターニア、メッシーナになります。



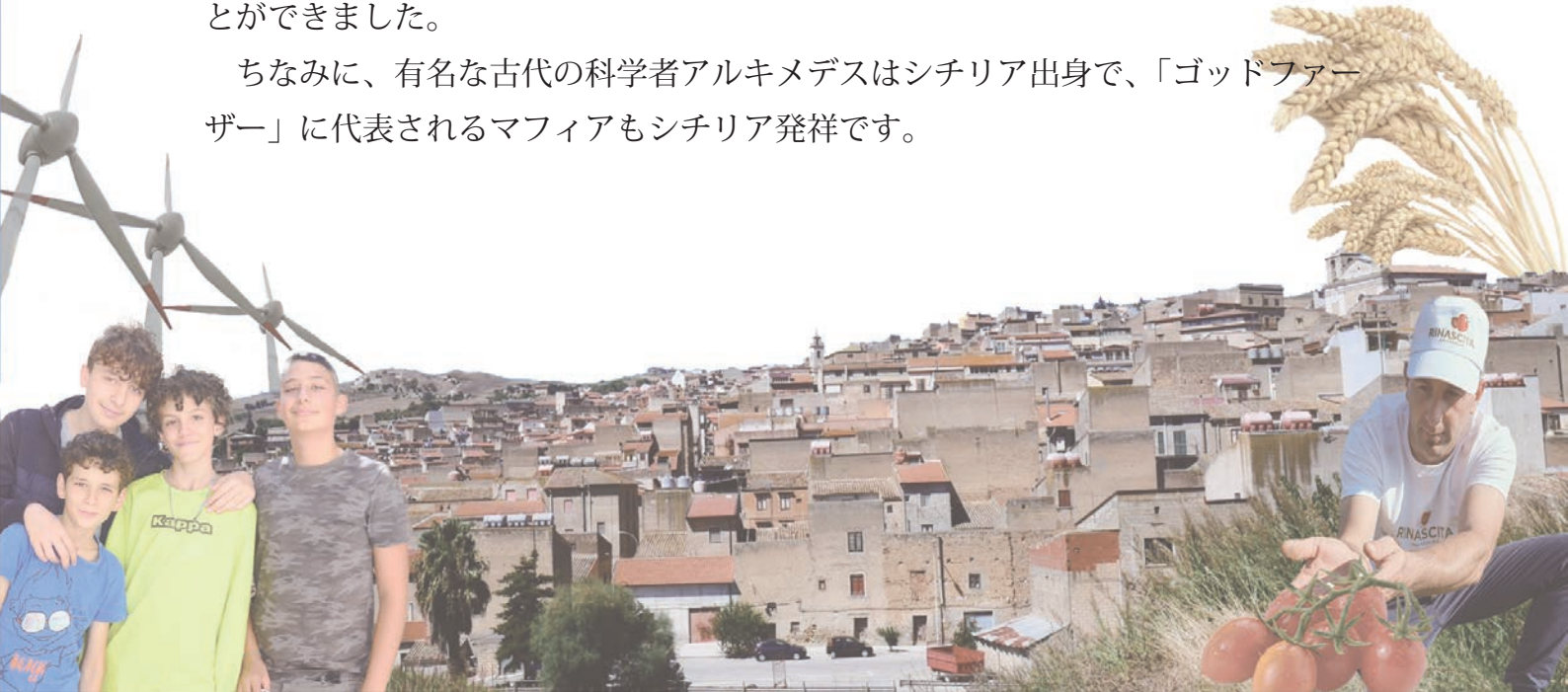
トリナクリア *trinacria*

これはシチリアのシンボル「トリナクリア」というものです。3つの足がシチリアの3つの岬を示し、麦の穂が肥沃な大地と繁栄を意味しています。実は真ん中の女性はメデューサだそうです。

地中海に浮かぶ島なので、海岸部では夏は暑く冬は過ごし易い気候です。一方で、大部分が山岳地帯で雪が降る所もあるそうです。今回のワークショップの地、ヴァッレドレモも標高800mくらいにあるので9月といえど夜は寒かったです。

さて、先ほど引用した文章から、シチリアにはローマ文化だけでなく、ギリシャやイスラムの文化などが積み重なっていることがわかんと思います。実際にまちを歩いて、アラブ様式のキリスト教の教会やギリシャ神殿、食文化でそれを感じることができました。

ちなみに、有名な古代の科学者アルキメデスはシチリア出身で、「ゴッドファーザー」に代表されるマフィアもシチリア発祥です。



3. ワークショップ中

9月10日の夜8時、パレルモ中央駅の前で各国の先生や学生と合流し、約2時間バスに揺られてヴァッレドルモを目指した。夜11時になる頃に到着し、遅い時間にもかかわらず、町長含めまちの人に暖かく迎えていただいた。そしてみんなで集合写真を撮り、宿へ向かった。

中学生くらいの女の子たちが宿の外でワイワイ話していたので、なんでこんな時間に外にいるのか聞いてみた。どうやら、「このまち小さくてみんな知り合いだから、夜遅く外出しても安全」なんだそうだ。宿にWifiはなく、屋内に入ると頑丈な石壁に阻まれてデータ通信もつながらなくなった。そのため、今回はWifiが使えるワークスペースが別途提供され、発表も朝食も全てそこで行った。



1日目：ワークショップ開始

宿からワークスペースへ向かった。ヴァッレドルモの朝は少しひんやりしていたが、空気は澄んでいて、通りの先に見える山がとても綺麗だった。



ワークスペースは古いヴォールトの建物をリノベーションしたものだ。まち全体の起伏が大きく、建物は半分地中に埋まっていたと思う。石造りで壁が厚く開口部が少ないなどの特徴が、建築史で学んだヨーロッパの古い建築そのもので感動した。



まず開会式が行われ、今回のワークショップの目的について釜山大学とパレルモ大学の先生から説明があった。ワークショップのタイトルは **Valledolmo Paradise 2030 -Living the transition-**、かなり社会的な側面が強いテーマになっていることが伝わり、建築のハードよりもソフトでまちの魅力に貢献できないか考えなければならぬと感じていた。

開会式が終わると、敷地を実際に見て回りながら、現状について解説を受けた。初めて国際ワークショップに参加し、右も左もわからなかったが、日本にいる時と変わらず最初に敷地調査を行えたので安心した。また、日本では馴染みのない砂岩や石でできた建物は、やはり実際に触って見ないと脆さや雰囲気かわからないと感じた。海外ワークショップに参加する魅力は、こうした異文化や環境について新たな知識を得られることだと思う。



↑開会式の様子



↑敷地の解説



↑土地を読み解く



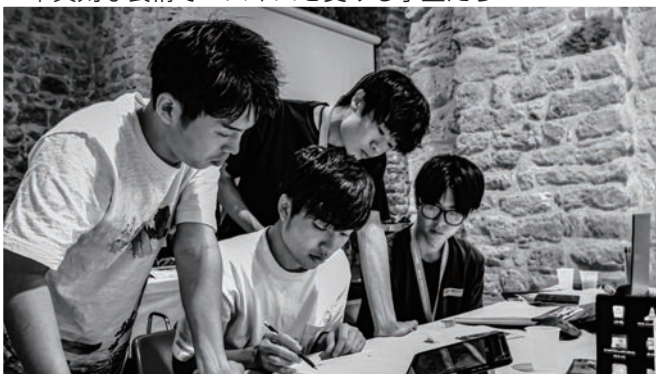
2日目：学びと遊びのメリハリ

私たちの提案のエスキスをしていただいたのは釜山大学の Chung 先生である。九大の先生が事情により急遽参加できなくなり、学生だけで頑張っていた私たちを心配し、提案のエスキスや発表の指導をしてくださり、とてもありがたかった。

2日目は提案内容について話し合うことがほとんどだった。事前調査や開会式のお話の中で、ヴァッレドルモでも日本と同様に農業がメインのまちで若者が都市へ仕事を求め流出していく現象が起きていることが分かっていた。日本は先進国でも少子高齢化が進んでいる国で、こうした課題を私たちはかなり身近に感じたうえ、参加した5か国の中でも一番理解していると思っていた。だからこそ、提案の中でヴァッレドルモのまちおこしを試みた。まず、移住者を増加させることや人口流出を防ぐために、子どもをターゲットにしようと考えた。子どものうちからまちに関わることで愛着を持ち、まちに貢献できる人間に育つと考えたからである。そこにヴァッレドルモの特徴である農業を絡め、子どもの農業体験のための建築を考え、中間発表で提案することにした。



↑ 真剣な表情でエスキスを受ける学生たち



↑ 提案方針を固めていく



↑ Marco Cotico 氏のレクチャー



午後に **Marco Coico** 氏による**文化や芸術による都市再生**のレクチャーが行われた。23才という若さで精力的にシチリアの様々な文化を発信する活動を行っている。副会長を務めている **Le Vie dei Tesori** というシチリアの魅力を発掘するイベントはイタリア全土から数十万人が訪れるほど人気だそうだ。

そのレクチャーの後、農場見学が行われた。色んな取り組みについて話を聞いた後、その場でパーティーが始まった。中間発表が翌日に控えている中、私たちの提案資料はまだ終わっていなかったのが不安になった。そこで、他のチームに間に合いそうか聞いてみると

「わからない（笑）

でも…明日やればいいさ！」

と言われてなぜかほっとした。

楽しむときは楽しむ、メリハリをつけることが大事だと心に刻んだ。



↑遠くから見たヴァッレドルモ



↑農園見学の際に見えた星空



3 日目：発表後のワインは格別

この日は午後3時から中間発表のため午前中は資料作りの詰め作業をしていた。その最中、地元の中高生がワークスペースを訪れて、ワークショップ中の私たちを見学しに来た。なぜか5か国いるうちの日本チームと中国チームだけに人が殺到し、質問攻めにあっただが、そんなにアジア人が珍しかったのだろうか。

あっという間に時間となり、九大は張君が代表して発表することとなった。Chung先生から聞き手側の心をつかむような魅力的なタイトルをつけることが大事だと言われたので、提案のタイトルは **New Kids On The Block** となった。これはアメリカの1980年代のボーイズバンドの名称から引用したものだが、発表の際に一笑い起きていたので、狙い通りだったと思う。もちろん、インパクトだけでなく、私たちの提案の目的である「子供を絡めて移住者を増やす」こと合致していたことも理由の一つだ。また、発表の最後、塘口君が描いたスケッチが映し出され、それについて「想像が膨らむ良い絵」だとコメントをもらい、スケッチを今回の発表のメインとして据えることにした。

発表後はワイナリーの見学へ行き、美味しい白ワインを片手にワイナリーの持続可能な取り組みについて学んだ。



↑スケッチを描く塘口



↑地元の中高生との交流



↑中間発表の様子



4日目：オールナイトシチリア

中間発表の時とは打って変わって提出物が重くなった。残り1日でプレボと動画を作らねばならなくなり、4人で分担して作業を進めた。

昼頃、後から合流した釜山大学の Woo 先生によるプサンのまちの歴史に関するレクチャーが行われた。他の都市への人口流出や山の多いプサンの町並みなどに関するお話で、釜山に近い場所に住む我々は特に身近に感じたレクチャーだった。

レクチャー後はひたすら提出物の作成に時間を割いた。この日ばかりはどのチームも夜通し作業を行っていた。最初に述べた通りワークスペースの壁は厚く、日中でも薄暗いため照明をつけているのだが、そのせいで朝になったことにしばらく気づかなかった。



↑ウー先生のレクチャー



↑デザインに悩む様子



5日目：長く短い祭り

気づいたら朝、気づけば最終日だった。提出課題は12時締切だったがどのチームも間に合っていなかった。特に私たちのチームは動画が間に合わず、やむを得ず不完全な状態で提出することになってしまったが、他のチームは締め切りを過ぎても完成させて提出しており非常に後悔した。

発表は中国、日本、オーストリア、韓国、イタリアチームの順番で行われた。



↑中国チーム

↑韓国チーム

↑オーストリアチーム

↑イタリアチーム

どのチームもかなりハードを重視した提案が多かったと思う。一方で発表動画はGoogleの音声機能を使ったり、録音したものを流したり、字幕で説明したりとばらつきが見られた。私たちは直接喋るスタイルだったが、英語が不慣れな分、聞いている側は理解しづらかったと思う。字幕を付ければよかったとか、もっと音楽を流して楽し気に発表できればよかったとか、反省する点が多かった。



↑日本チーム



発表が終わり、授賞式があった。3部門あり、私たちは Sustainability & Context の部門で賞をいただいた。その素敵なトロフィーが世界展開のオフィスに飾ってあるので見に来てもらえるとうれしいです。

そして寝ないまま、お祭りが始まった。たまたまヴァッレドルモのお祭りの日と私たちのワークショップの最終日が一緒だったのだ。花火が打ち上がり、楽器隊とマリア様の像がまちを回っていたのは午後11時になるころ。初めての海外のお祭りの衝撃に眠気が吹っ飛び、気づけば早朝4時まで住民や他チームの先生や学生とバーで語り、仲を深めていた。



↑トロフィーを受け取る様子



↑閉会式の様子



↑楽器隊とマリア様の像



↑バーの様子



4. ワークショップ中の見学について

農場見学（ワークショップ2日目）

ワークショップ中最初に見学で訪れた場所は **Verbumcaudo** という組合が運営している農園です。大きな中庭のある古い要塞に着くとその周りに果物や野菜の畑が広がっていました。

実はこの農園のある土地はマフィアが所有していました。というのも、マフィアはもともと農地を守るために農地管理者が武装したことがきっかけで生まれたんです。彼らは農民を搾取し、次第に凶悪な組織犯罪集団となっていきました。

話を戻すと、Verbumcaudo はマフィアの手から離れたこの農地で大規模農業を開始しました。有機的で持続可能な農業の傍ら、地域貢献にも取り組んでいます。シチリアの重要な産業である農業を通して、若者に仕事を与え、シチリアに留まってもらうというプロジェクトです。こうして多くの力を得て、手間も時間もかかる有機農業は維持されているのだと思いました。



↑ 新鮮なトマトを食べる様子



↑ 広大な農園



↑ 要塞の中庭で乾杯！



ワイナリー見学（ワークショップ3日目）

次に訪れたのは190年以上続くワイナリー **Tasca d'Almerita** です。シチリアで一番古いワイナリーであると言われ、イタリアにおける名門生産者として名を連ねています。Tasca d'Almerita はシチリアに5つの自己所有の畑を持ち、今回はその中でも本拠地である Regaleali を見学しました。

このワイナリーも先ほどの農場と同様、持続可能な取り組みを実践していました。エネルギーの観点では太陽光発電を推進したり、ガラス瓶を軽くしたりすることでワインの生産から輸送までエネルギーコストを抑える取り組みを行っています。また、100% 地元のブドウを使い、80% 以上地元の従業員でワインの生産に取り組んでいます。地産地消が地域コミュニティの活性化、雇用機会の増加へつながっています。

この2回の見学を通し、シチリアならではのマフィアの歴史から日本と同じように都市への人口流出やサステナビリティといった問題が語られ、それに対するシチリア人の解答を学びました。



↑ワイナリーから見える素晴らしい景色



↑取り組みについて熱弁



↑おいしいワインに笑顔がこぼれる



5. 素敵な写真たち

パレルモ到着時 夜 12 時を過ぎても賑やかだった



パレルモ初日 ヨーロッパの街並みを馬が走る



ヴァッレドルモでの食事



6. まとめ

シチリアワークショップ体験記はいかがだったでしょうか？

私たちは今回の2週間のワークショップを通して、様々な経験を積むことができました。英語での交流はもちろん、特に、日本と異なる文化への知見という点で国際的な感覚が身に着いたように感じています。

今回のワークショップでは話す言葉は全く異なる国から来た学生がシチリアに来て、同じ課題に取り組み、仲を深めました。これは「文明の十字路口」と呼ばれるシチリアらしい出来事だったと思います。また、ギリシャやアラブ、ローマの文化をこの1回のワークショップで体験でき、様々な旅を1度に凝縮したような時間を過ごすことができました。

そして、海外の文化を学ぶだけでなく、日本を含めた国際的な課題についても考える機会がありました。今回のワークショップで、日本と同様にシチリアでも都市への人口流出や農業人口の減少といった課題が起きていることを知りました。シチリアではそのために歴史や特性を生かした対策が取り組まれており、改めて日本の現状について考えるきっかけにもなりました。また、ワークショップを対象敷地のあるまちで開催し、地元の人と地元の食や文化を通じて交流できたことは今回の提案だけでなく、これからの私たちの生活にも影響を与えるほど印象に残りました。

この体験記がみなさんの海外のワークショップに参加する
きっかけになれば幸いです



おわり

